

平成 22 年度 大学職員情報化研究講習会～基礎コース～ グループ研修レポート

グループ名：Next Generation University (A 班 4 グループ)

メンバー：井上友裕 (京都産業大学) 岡崎綾子 (帝塚山大学) 北野秀樹 (関西大学)
末永節子 (東海大学) 利根川貴大 (大東文化大学) 中丸拓也 (青山学院大学)
古家一憲 (大阪体育大学)

テーマ：時代の変化に伴う学生へのサポート組織体制

1. 課題認識

i 社会的背景

近年、18 歳人口の減少や高度情報化社会への移行、ライフスタイルの多様性が浸透するなど高等教育機関を取り巻く社会環境が大きく変化をしている。それらの変化に伴い、大学生にも大きな変化 (例えば、道徳やモラルの低下、コミュニケーション能力の低下等) が見られる。これらの社会変化や問題に対応することは、大学において重要な課題となっている。

ii 時代と共に変化する学生像へ対応するために

上記の背景を踏まえて、我々、大学職員は学生の変化に合わせた十分な対応が出来ているのか、また、学生のニーズに的確に答えることが出来るような組織体制になっているのかという課題が浮き彫りになった。更に、学生や社会環境の変化と共に社会のニーズも変化をしており、大学はそのニーズにも応えていかなければならない。これらの課題を解決するために、「理想の大学を創る」という目標を掲げ、新たな大学組織体制の構築に向けて議論を行った。

2. 討議内容

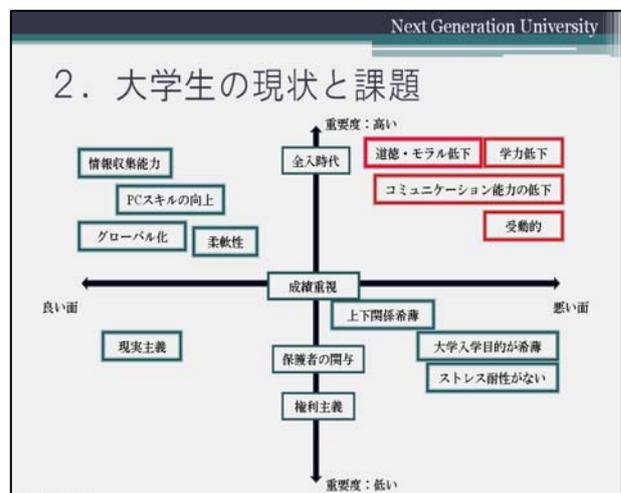
i 「今」の大学生の特徴

この課題に取り組むに当たって、まず、現状の大学生の分析から始めた。ブレインストーミングや KJ 法を参考に、各人が日常業務で関わる学生を基に、現代の大学生像を思いつままに付箋紙へ書き記した。それらを集約し、より分かり易く特徴づけるために、プロット図に分類した (図 1 参照)。

このプロット図は、縦軸には「大学や学生にとっての重要度の高/低」、横軸には「良い面/悪い面」という基準で設定をしており、4 つの категорияに分類した結果、その中で重要度が高く、悪い面に分類された事項として以下の 4 点が挙げられ、それらについて議論を行った。

【カテゴリー】

- (1) 道徳・モラルの低下
- (2) 学力低下



(3) コミュニケーション能力の低下

(4) 受動的

図1：メンバーが描く「現代の大学生像」とその特徴

ii 学生の「質」向上のための環境サポート

先述した学生の抱える課題に対する方策を議論した結果、[P.P.スライド 4]の解決策を提起した。学生が抱える問題や悩みに対して十二分に対応してくためには、現状の学生を取り巻いている(1)~(4)の課題を環境の面から改善していくことが最善の策であると考えた。私達のチームでは、教職員が一丸となって環境を整備し、学生の持っている潜在的な「能力」を引き出して社会に輩出しても活躍できる人材を育成していくことが、大学にとって重要な使命であると考えた。

iii 組織(チーム)づくり

学生のニーズに柔軟に対応していくためには、[P.P.スライド 4]のように、各課題に対して対策を練る必要がある。しかし、各課題は、様々な要因が複雑に絡み合っているため、一部署のみで各課題に対応していくのは非常に難しい現状がある。その対応策として、部署を越え、教員を含んだ現場担当者レベルでのプロジェクトチームを発足することが効果的だと思われた。プロジェクトチームは、各部署で起こっている問題に対する対応策を提起し、また新しい企画などについて考えていく。このチームに職員のみならず教員を巻き込むことにより、教職協働が強化され、教員と職員の情報共有も円滑となる。また、若手職員が参加をすることで、人材育成(社会人基礎力の向上)にもつながる。

多様なプロジェクトチームを柔軟に発足していくことで、積極的な大学組織へと進化していくと考える。

iv 評価の方法

各プロジェクトチームからの企画案、解決案の最終評価者は学生であると考え、以下の方法を採用ことにした。

まず、大学生活における4年間の大学評価を、卒業時に学生満足度調査として行う。また、これからの大学は、迅速かつ柔軟に社会のニーズに応えていくことが重要であると考え、一般社会からの評価として、企業の人事採用担当者を対象に、その企業に入社した卒業生の評価アンケートを実施。企業からの声をダイレクトに聞き取ることで、今企業がどんな人材を望んでいるのかを理解していく。

これらのデータを、今後の改善策の材料として活用していくことが重要となる。

3. 提案内容 (まとめ)

私たちのグループでは学生サポートという非常に幅の広いテーマを取り上げたが、今の学生が抱えるニーズや課題は、すべての部署が一丸となり、取り組まなければならないことであることが分かった。そして、それらの課題解決のためには、部署を越えた連携が必要となることは当然ではあるが、それがなかなか実現されていない現状があると認識した。そのために私たちのチームでは、学生の様々な課題を提起し、大学の将来構想に向けたプロジェクトチームを、個々の意志により立ち上げることが出来る組織環境を作り上げることが重要であると考え、今回の提案に至った。

課題を解決していくプロジェクトチームを柔軟に発足することで、多種多様なアイデアが生まれ、その結果、大学が活性化される。また、職員の人材育成にも繋がり、学生サポート体制が充実することによって、学生が満足できる大学に一步步近づいていく組織となることを目標としている。

以上